



大明神川流域の一部を拡大



【地形分類からわかること】

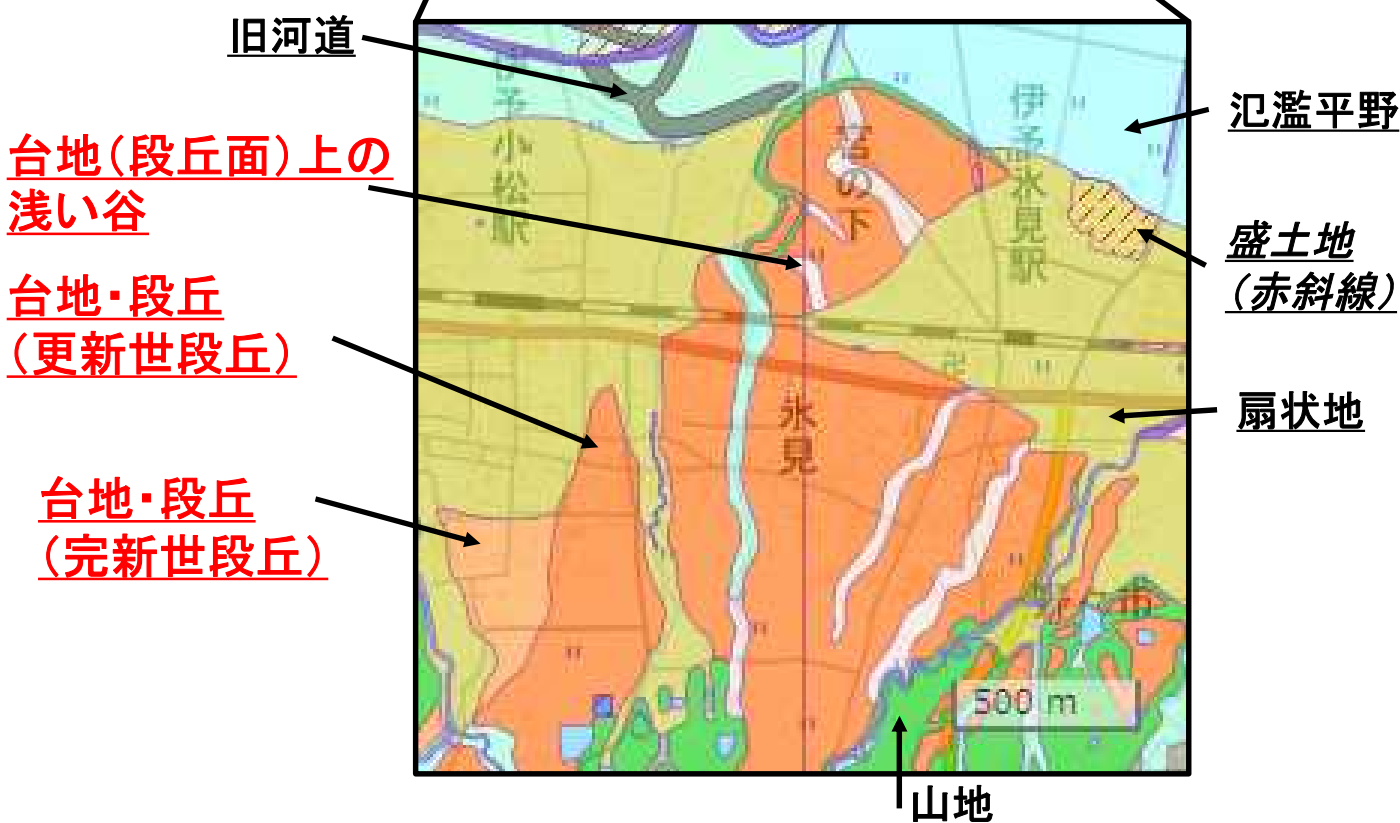
- 大明神川周辺には、**旧河道**が多く分布していることから、この地域はかつて洪水流があり、それにより砂礫や泥などが堆積したことや、人工的に河川堤防が築かれたことで、固定された河床に土砂が堆積し、周囲の土地より河床が高い**天井川**が形成されていることがわかります。
- **天井川**は周囲より河床が高いため、堤防が決壊した際には、氾濫流が勢いよく広がり、被害が大きくなる災害リスクがあると言われています。



ハザードマップポータルサイト
「災害リスクレポート」より



西条市氷見の一部を拡大



【地形分類からわかること】

- **台地・段丘**は周囲が侵食により削られて取り残されてできた平坦な土地であり、地盤が良く、地震の揺れや液状化のリスクが小さいとされています。
- 一方、平坦な表面が雨水等で侵食されると**台地(段丘面)上の浅い谷**という相対的に低い地形が形成され、集中豪雨の際などに洪水流の流路となるリスクがあるとされています。